

全国へ佐渡米を届けましょう!

現在の米穀情勢は、令和5年産米から続く全国的な作柄不良や備蓄米の放出などにより、日々目まぐるしく変化しています。新聞やテレビなどでも連日、米に関する話題が取り上げられ、全国的に注目を集めています。

こうした状況の中、JA佐渡では日本全国へ佐渡米をお届けしています。令和7年産米についても、すでに各地の販売先から購入希望が寄せられており、コシヒカリの販売先の約4割にあたる全国の生協からは5,000t、関東方面の量販店や米穀店から6,000t、中京・関西方面からも5,000tの要望を受けています。

北海道から沖縄まで、佐渡米が高い評価を受けているのは、その食味や品質に加え、トキを中心とした「生きものを育む農法」など、生産者の皆さまの努力と取り組みが、全国の消費者の共感を得た結果だと考えています。

しかしながら、すべてにお応えできる状況にはありません。令和7年産コシヒカリの出荷契約数量は13,000t余りとどまり、要望数量を大きく下回る結果となっています。

JA佐渡の使命は、佐渡米を安定的に消費地へお届けすることにあります。今後とも、生産者の皆さまのご理解とご協力をいただきながら、佐渡ブランド米を取り扱う全国の販売先の期待に応えてまいりましょう。



◆穂肥の準備を始めよう!

近年の気象は平年通りにならず気温の乱高下やゲリラ豪雨など不安定な状況が続いており、平年通りでは対処できない状況となっています。1か月予報では気温は高めで降水量も多い予想なので、日照が少なく徒長する懸念もあります。

最新の気象情報を入手すると共に、測定機器を使って「数値」で生育を把握することが必要です。

中干し後はケイ酸質肥料施用で稲を硬くし、穂肥に向けて万全の準備をしよう!

●田んぼに行く装備



各事業所で
SPAD無料貸出し開始!
7/11(金)~

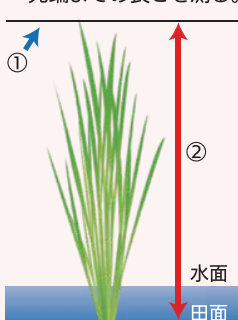
葉色板を半分に切れば
2倍の活躍をしてくれそうです!



YouTubeでSPADの
使い方を紹介しています!
SPAD平均値算出法が
確認できます。

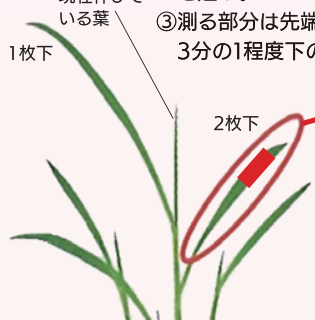
●草丈

- ①垂れている葉を垂直に起こす。
- ②田面(地際)から一番長い葉の先端までの長さを測る。



●葉色

- ①稲で最も長い茎を選ぶ
- ②その茎の中で現在伸びている葉の2枚下の葉を選ぶ。
- ③測る部分は先端から、3分の1程度下の位置



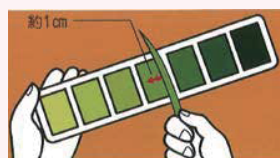
○葉色素計 (SPAD) の場合

中央の中肋をはさまないように計測



○カラースケールの場合

板から1cm程度離して、直射日光を避けて色を比較する。



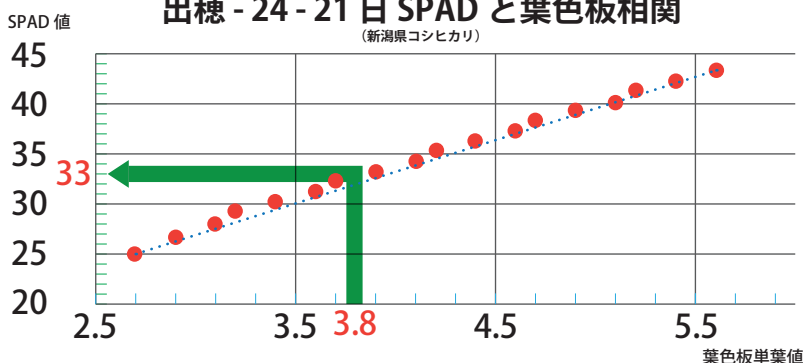
SPAD 値は葉数(上から何枚目か)測定部位で変わります。左の図の通りに選んだ部位を測定して下さい。

★マーカーで印を付けておくとう間違い

葉色板はや光の当たり方でも異なるので同じ時間帯で測定して下さい。

出穂 - 24 - 21 日 SPAD と葉色板相関

(新潟県コシヒカリ)



単葉(葉っぱ1枚)を複数枚測定して平均が3.8なら、グラフをたどってSPAD 値33と読み替えます。

★生長によって葉の厚みが変化するので出穂の-24日～-21日の場合のみの適合となります

● 1回目 穂肥の施用時期

【出穂20日前の草丈と葉色診断結果を下図に当てはめてみましょう!】

出穂前日数	幼穂の長さ
25日前	0.1cm
20日前	0.5cm
18日前	1.0cm
12日前	5.0cm

(単葉色)	SPAD	33より薄い	33~36	36より濃い
	カラースケール	3.5より薄い	3.5~3.8	3.8より濃い
草丈	75cmより長い	△	△	×
	70cm~75cm	●	●	▲
	70cmより短い	★	●	▲

● ○草丈が 並 または ○草丈が 短い
○葉色が 並~薄い ○葉色が 並

⇒ チッソ成分で1kg/10a施用

△ ○草丈が 長い
○葉色が 並~薄い ⇒ 施用量を減らす

× ○草丈が 長い
○葉色が 濃い ⇒ 1回目は施用しない

▲ ○草丈が 並~短い
○葉色が 濃い ⇒ 施用時期を遅らせる

★ ○草丈が 短い
○葉色が 薄い ⇒ 施用時期を早める

一発基肥を使用の場合



・低地力や施用量を減らした、または、早期梅雨明けや猛暑等により葉色が淡くなった場合 (SPAD30以下・葉色板3.3より薄い) は分施2回目の時期に穂肥施用が必要になります。

● 2回目 穂肥の施用時期

- ・「越後の輝き 有機50穂肥」または「みらい有機831」を使用の場合… 出穂10日前
- ・「味好2号」を使用の場合 …………… 出穂12日前

稲のボリューム(草丈×茎数・葉色)によってどれだけ栄養を追加するか、田んぼ地力や穂肥前までの根の張り方にも左右されます。

分施の場合は1回の窒素成分量は1~1.5kg/10a位で施用後の葉色変化が見られますが、有機由来の窒素を多く含む場合は肥効が出るまで時間を要します。

ご自分の田んぼで葉色値がどのとき、何日前で肥効が現れたか? 記録しておくといいいでしょう。

★ 1回目穂肥時に下位節間長(幼穂の下節~根の付けね)が4cmを超えていると倒伏の可能性が大きくなります。止葉が1枚多い・極端に長い場合も倒伏リスクが高まるので、施用は控えめ遅めにする工夫が必要となります。

異常高温や稲体の体力急落で穂肥後でも葉色が落ちる場合

⇒ 出穂の6日前(穂孕後茎が裂け粉の一部{芒}が見えた瞬間のSPAD 値が32を下回った場合はその後3日以内に窒素成分1kg/10aの「耐暑肥」で暑さを乗り切して下さい。